



## ご挨拶

中央執行委員長 板村 裕之

本年度中執の委員長に就任しました生物資源科学支部の板村です。一生懸命頑張りたいと思いますので、三瓶副委員長、榎原書記長、伊鹿倉書記次長はじめ新中央執行委員ともどもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

尖閣諸島周辺での中国船長が逮捕された時、中国は水面下で副首相級の国務委員と当時の岡田外相との電話会談を打診してきたが、外相のドイツ訪問で日本政府は取り合わず、胡錦涛政権の対日不信をかき立てたと昨日の山陰中央新報に報じられました。新しい政府になって中国とのパイプが密でなかったこと、連携の薄さが問題をこじらせたとも言えます。

職組と当局の交渉もパイプがもろくなると決裂することが、いろいろな職組で例が挙げられています。幸いにも私も島根大学職組では何代にもわたる中執の努力で、団体交渉の前の事務折衝で問題を明らかにして、スムーズな解決をするシステムとパイプが築かれてきました。そのお陰で勝ち取るのが難しいとされた人勧準拠による給料ダウン分を研究費、待遇改善、研修の充実などによる補填という形で成果を勝ち取ることが出来ました。さらに出雲地区の女性のがん検診も実現させました。

そのパイプ役を務められたお一人である三瓶氏が副委員長として現執行部に残って頂いたお陰で、スムーズで正当な闘いを進めることが出来ています。

本年は昨年度中執によってルールを敷いて頂いた給料ダウン阻止、人勧への対応、センター入試の手当支給のための団体交渉、組合財政の立て直しに加え、ユニークなレクレーション（落語会など）、欠陥インフラ、休暇の取り方の調査、医学部職員支部との懇談会などに取組み、堅実なリードの榎原書記長、鋭い論点提示の伊鹿倉書記次長、経験豊かな三瓶副委員長、石橋書記、清新で力ある中執メンバーが一体となって力を合わせるとともに、過半数代表者会議とも連携をとって、より良い職場をつくってゆきたいと思っております。ともども頑張って参りましょう。

## 昨年度の重点要求が実現する！

9月28日(火)人事労務課との事務折衝の席上、2009年度重点要求項目であった出雲地区の女性職員のがん検診について「来年度から自治体等が実施する検診を受けてもらい、その費用を大学が負担すると決定した(医学部教授会承認)」旨の報告がありました。

\*

3月9日に島根大学職員組合が大学側に提出した重点要求は以下のとおりです。

### 16. 出雲地区の女性職員に対し、がん検診を行うこと

松江地区では職員の健康診断として35歳以上の女性に対しがん検診(子宮がん及び乳がん検診)を実施しているが、出雲地区では大学実施の健康診断が行われていないので、早急に実施していただきたい。それが実現できないのであれば、自治体等での検診ができることを周知し、職務専念義務を免除し、受診費用の大学による負担を実施すること。

レポート

## 全大教青年部・青年交流集会

こんにちは、組合支部役員の高口です。去る9月4日(土)～5日(日)に、神奈川県横浜市で行われた全大教青年部交流集会に参加してきましたので、紙面をお借りして報告させていただきます。

島根大には組合青年部が無いこともあり、どんな大学のどんな年齢層の方々が集まるのか、ドキドキしながら会場に行きました。驚いたのは、参加者がとても若かったことです。

勤続1～2年の方が多く、中には18歳(!)の若々しい組合員さんもおられました。出席されていない加盟大学もありましたが、その一方で何人も若手が出席された大学もあり、活発に活動している組合が多数あることを実感しました。

主な企画として、テーマ「組合青年部の活動をいかに広げていくか」ということで各班討論を行い、最後に発表を行いました。どの班にも共通する意見として、「採用時に積極的な勧誘で組合員を増やしていくことが有効ではないか」、「組合に参加するメリットを強調していくことが必要である」等が挙げられました。また、各大学の規模大小によっても「組織が違くと連絡が取りづらい」、「運営に関わる負担が大きい」等の事情に応じた問題を抱えていることも分かりました。

また、夜の懇親会では、元本学教員の全大教・長山副委員長の挨拶のもと、和やかな雰囲気で見聞交換が行われました。

全体の感想として、採用間もない活発な組合員やそれを引っ張る先輩組合員の皆さんの情熱を感じました。各大学とも財政・人員面厳しいながらも、楽しく組合活動されているようです。以上乱文ながら、報告とさせていただきます。



(職員支部 高口 満子)

## 全大教教研集会と労働セミナー in 横浜市立大学

9月17日(金)18日(土)に金沢八景キャンパス(その昔は風光明媚な土地だったようですが、ここは全国でも指折りの過半数組合です。「市大には金は無いが自由がある」が法人化前の自負であったそうです)で開かれた、全大教第22回教職員研究会2日目午後の分科会「過半数組合作用と魅力ある組合」に参加しました。法人化以降、教職員間の交流、連帯感、協働感が切り崩される中での取り組みが報告されました。なかでも、徳島大「メルマガによる広報活動」(可能な限り全教職員に送信)が印象に残りました。組合員でない教職員に組合の存在感をアピールするのに有効な手立てがかもしれません。

さて、旧医科大との統合を経て組合員拡大に苦慮する複数単組から報告がありましたので、島根大の現状を紹介しながら、どういう手順で医学部における組合員拡大を目指すべきかについて意見交換しました。従来から医学部を抱える大学は事情が異なることは明らかですが、大勢の看護師で組織される附属病院等の特殊な職場事情も考慮しつつ慎重に「まず一角を崩すことが大事であり、そのために何十回と訪ねる」(群馬/新潟大)、「人柄にもよるが、交渉は看護部長次第のところがあり、7-8月に看護部長に新役でまずは挨拶し、部長との事前交渉後に9月病院長交渉する」(大分大)という手順が説明されました。なお「看護師オリエンテーションでの組合紹介が、看護部長の一存で今年も開催できなかった」(佐賀大)という事例もありました。また、ピラ配布など地道な声掛けを重視する京都大から、看護部長に年次休暇の消化要求した後、関係がギクシャクしたと報告がありました。



今年度の中執では、板村委員長を中心に出雲キャンパスの組合員拡大を目指し、定期的な訪問や懇談会などを予定しています。時間と根気が必要な下地作りですが、一歩ずつ前進したいと考えています。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

\*

翌19日(日)午前開催された全大教労働セミナーに出席しました。概略は以下のとおりです。

### 「労働組合の機能と団体交渉」 和田 肇(名古屋大教授/労働法)

教職員のメンタルヘルスケアに関して労働安全衛生委員会が十分機能していない/学生の自殺も含め、教職員と同じく学生の学習生活環境への配慮・改善要求を組合が積極的にすべき/障害者雇用促進法改正に係る大学執行部の対応を監視すべき/一般事務職員と教員との是正格差(名誉教授に相当する特典やサバティカル等のインセンティブなし)という具体的な問題指摘があり、大変参考になりました。

## 「大学教職員組合の課題と組合リーダーの役割」

小畑 隆資（岡山大名誉教授 / 日本政治史）

連合体組織である岡大職組の特異な経験を講師独自の組合論を絡め紹介された。とりわけ三役制について「複数副委員長制度の活用」が聴衆から関心を集めました。三役の継続と負担軽減から取られた制度（副委員長を 3~5 名）でしたが、何年にも亘って三役を引き受ける教員は「自分の専門（政治史や憲法など社会科学系）という内因が強い」というのが、古参組合員の本音のようでした。

（書記次長 伊鹿倉 誠）

くみあいレクリエーションのお知らせ(文化厚生部より)

## 松幸寄席 in 島根大学

組合員のみなさん！先般の映画鑑賞補助券のご利用ありがとうございました。おかげさまで用意した補助券は全て完売となりました。出遅れてゲットできなかったみなさま、申し訳ありませんでしたm(-- )m。来年をご期待下さい。

さて、自己紹介が遅れましたが、今年度の文化厚生部（レクリエーション）を担当します飯野公央（法文学部）と須山弘一（施設企画課）です。よろしくお願いたします。

文化厚生部の役割は、組合員の交流を通じて相互理解を図ることですが、最近はみなさんとても忙しく、レクリエーションを企画してもなかなか参加できないのが現状のようです。その意味で、自由に使える映画補助券に人気が集まるのも無理からぬことですが、やはり同じ職場に働くもの同士の交流が図れてこそそのレクリエーションですので、今年度は学内でイベントを企画することにいたしました。

**第1弾は、松江市出身の若手落語家、立川松幸(たてかわまつこう)さんをお招きし、松幸寄席 in 島根大学を開催します。**

日時等は以下の通りです。仕事の疲れや日頃の憂さを笑い飛ばしましょう。



立川松幸さん

### 松幸寄席 in 島根大学

日 時 11月12日（金） 18時30分～19時40分  
18:30 開演 落語一席 立川松幸  
19:00頃 落語一席 立川松幸  
19:30頃 おたのしみ抽選会

場 所 大学会館2階集会室  
木戸銭 無料（組合員）

当日はお楽しみ抽選会もありますのでご期待ください。また、組合員でなくとも入場できますので、ご家族同僚をお誘い合わせの上お越しください。